

衆議院  
(三十一)

一、國庫中納金總辦會計法  
委員長岡崎運平氏(同志)委員會議の  
經過並に結果を報告し直ちに可決確定  
二、帝國大學附會計法(修正案)  
委員長大橋大次郎氏(同志)委員會議  
は審議の結果原案可決せりと報告し  
杉山四五郎氏(政友)の反對を述べた  
鈴木萬次郎氏(同志)之を駁論して決  
案に賛成し採決の結果原案可決  
三、造幣局設備擴張費に關する法  
律案  
大西五一郎氏(中正)委員會の經過並  
に結果を報告し直ちに原案可決  
此の時議長は緊急を要する政府提出  
案の日程に上すべきや否やを諮り  
要否なく

(中正)地運經済並に學問上より福岡  
は九州の中心なりとて原案に賛成し  
川原茂助氏(政友)は長崎控訴に移移  
の必要を論じ原案に反對し次で奥  
村七郎氏(公友)の原案維持を説き此  
時熊本長崎選出代議士は  
案の前途を氣遣ひ議場  
を駆け廻りて誘説に務  
め尾崎法相に反感を懷  
ける議員は徒に反對説  
に拍手し議場の光景一  
變なり最後に齋藤隆夫氏(同志)  
は法相は福岡市に對し寄附金を要求  
する

寺内總督動靜  
寺内總督は二十五日夜下關乘  
艦に泊し一泊して歸任すべしと傳  
聞

海軍經理官更迭  
新駐米公使經理部員  
陸軍第二師團長 木村  
第一師團經理部員  
陸軍第二師團長 香山  
新駐印公使經理部員  
陸軍第三師團長 村井  
第十六師團經理部員  
陸軍第三師團長 忠  
免本職補新駐印公使經理部員  
(中略)

▲**獨逸**  
ブヒン  
ルデン  
グン  
**軍敗戦す**

ゼネラル來電に曰く、ヒンデンブルグ軍は露軍の逆襲に遭ひて敗北し、大砲及び軍需品を遺棄し退却せるが約一萬の獨逸兵は逃去し露軍は進發しつゝありイクスチユル附近に於クムまで逃去し露軍は進發しつゝありイクスチユル附近に於

▲  
レヴァ  
ナ  
**方面露監塚の活動**  
ほうめんろかんたい  
くわつどう

在フカレストタイムズ特派員所報に曰く、バルナ港の北方に約四十隻よりなる露國艦隊は二十日カリアクル岬口に現はれ、それより南方バルナ方面に進航せり。又公報に曰く、猛烈なる砲撃聞え續いて五六の爆發聞え、えたりされど濃霧の爲め艦隊の活動を目撃する能はざりき。砲撃は二時間、に及びしが、勃牙利陸上砲兵は重砲を以て之に應へたり。倫敦電報に曰く、艦隊は同日正午カリアクルに歸航せり。

[illegible]

味不明瞭にて誠意の認むべ

蒙元世宗非漢 馮國璋等之反  
 對し、位制を假けて、懷柔に努  
 力を以て、反對者盡くするも  
 開殺の機、然不密の狀を呈  
 古氏は皇位に即か、しめて、帝  
 行、せん、急、無、立、つ、一、  
 して、本、問題、は、對、外、關、係、上、對、  
 帝、に、帝、制、實、行、期、の、迫、る、を、  
 大、事、重、大、の、加、へ、來、れ、  
 反對氣勢増大

東城典言念相林

駐志兵隊異動  
三月二十三日附を以て朝日駐劄憲兵  
按に左記の如く異動發表さる

遊藝場土地の擁護を受けたる  
は歴史のなほ植樹の年明にあ  
ば年内は僅少の植樹を爲して  
け明後以降に於て大々的植樹  
なりと

見事

憲兵中佐 瀧 元二

憲兵中佐 大橋 又二  
憲兵隊長を免じ金澤憲兵隊長  
す

朝鮮駐劄春川憲兵隊長憲兵少佐 鈴木武

普通寺憲兵隊長 藤谷 浪吉  
長憲兵少佐  
職補朝鮮駐刺憲兵隊長  
憲兵隊附を命ず  
他に一二の進級者ありと

督之馬關電報 寺內閣  
 十三日午後四時に到著せる旨  
 電報ありしも總督府には未  
 の通牒なし、同地の電報は々  
 なる可しと

例長官會議 二十四日  
 官會議當日とて山縣政務  
 各部長官局長は午前十一時  
 府第二會議室に參集、通常政  
 き打合せの上正午散會したり

なりし日縣政務總監は二十  
登陸政務に執筆しつゝあり

議解散役員會 京城日  
業會議所は京城、商業會議所  
と同時に基程の必要を認め  
て、たゞを以て二十五日午  
起りたるを以て、役員會を  
開き、同會議所樓上に役員會を開  
に關する打合せをなしたる上  
に、十七日總會を開會する筈なる  
所の、數直とは會員三分の二に  
意を要することゝ年末を忙  
此點に就ては大に研究中也と  
贊會商議員會 京城協  
ては二十七日午後一時より銀  
所に於て商業會議を開會し協  
散、而して商業會議の剩餘金處分  
を協議すべしと

商議員四十九名を招待し慰

大阪より  
 局に印棉請給  
 大阪棉  
 大市は青棉込みにて二百八九  
 にして殆どの中日本二百四十萬  
 内地需要八九十萬依歐洲及び  
 五十萬倭なるが市場相場は常  
 の需要の米相場の下幅に在  
 とすれ共来るべき戰局回轉  
 よりては著しき値額を生じ印

遮断するに於ては喜望峰回

輸出は一層打撃を受けること又輸出は僅々四十萬俵を越えざるに於ける國體變更後の動靜は極度に變更する等に據りて考

地塗料奔騰 一般海運

随つて其價格は大に奔騰し、  
蜜料を通じて百斤につき四十  
達し之を約二箇月以前に比す  
んば五圓の向上を示せり

戸觀光團の奮發 粟に力を觀察せる神戶經士連は其境に鑑み渡邊浩吉氏等の組織を率ゐる新日本郵政會社に對し金五千圓を贈ることも川西・龍川・湯淺の金一千圓宛を出し金幾りのものは他の人々にて贈出すに主なりければ不日發送するに至る存費の中へ金千二百圓を贈出したる此の分は死に歸りたれり

たり(大阪支局發)

語 下の座敷を奉り客を  
 御座るの覺悟をした  
 問題になつて居る有智博士の來  
 と云ふものゝ全文を這つて來  
 に角珍とするに足るのだらう  
 ヨツクラ此處で讀み上げて見  
 書て見ると如何に榮して恩に  
 頭し仰いで聖恩を膺る外臣  
 身を以て陛下恩遇を蒙り海内  
 んど比し難し進者外臣が唐  
 座を蒙るに因つて又生指  
 の聖語及び宋指唐指外臣  
 賜せらるゝ拜頭之餘、懼懼  
 知らず伏して惟るに中日の

是に在り△母國に於て固應

所に非ず。然かも、法律に  
 國家を利し、日本に害な  
 兩國に有利なるを見れば、必ず  
 て其法を明にし、其實行に  
 めん。此に因りて、鯨を犯し  
 ず。亦且、惜まず、區々の人、嘗  
 なし。突、燕京の風土、海に外  
 と相適し、年齒も亦正に、致力  
 れり。即ち、其年末、滿鐵する

致して陛下所命の法律に従

具恩施を恭聞す伏して聖鑒を乞ふ  
之れが其の全文に金く以て愈々  
千萬元なもので袁氏もそつく

ふらしい此この人は袁ゑん氏しを

で手を焼いた▲お蔭で此方にも甚だ以て迷惑をして居るが外臣の筆法で大芝居でも打ちやをつかない事だ

便利な國民日記

近年、我が國の家庭にて益々日記をつけることの必要を認めらるゝやうになりましたのは、誠に結構な事と思ひます。これにつれて、記帳用の日記類も、年々發行高が殖えてまゐり、毎年内容を整備し、意匠を凝して、種々様々の日記が出版せられます。



心を加へ、家庭用としては最も便利重寶なものです。即ち、主婦に必要な季節や、其の日其の日の惣菜料理とか、家庭救急療法などがあり、又婚禮の儀式、育児の葉、交際の心得、さては衣服の事、花卉園藝の事など、凡そ家庭に於て、日常の用務を辨するに必要な事柄は、總て網羅してあります。殊に毎日の欄下には世界偉人の年表、言行の大要、現代名士の誕生日、または世界重要事件の日時場所まで、参考として記してありますから、家庭教育の資料も十分に蒐集されて居ります。尚ほ此の日記の特色として、大書すべきことは、毎月の初めに、廣業、清方、輝方、蕉園、百穗、耕花等現代十二畫伯のそれそれ特色ある繪畫を挿入した事で、畫題に日本の代表的婦人を選んである事です。そして其の裏面には其の月々の季節と式日、行事、節物を面白く掲載してありますから、趣味の點から云つても、之に超した日記はありません。而も紙質の精良なこと、製本の堅牢なこと、装幀の優美なことは、此日記の最大特色でございます。

定價金四拾五錢  
郵稅金八錢  
取次所  
京城日報社代理部  
京城太平通一丁目  
振替京坂三〇番







六神聞佐來せり　★小米　輸出★  
 駝牛の輸出價は四萬八千七百九十七斤に  
 駝牛の輸出價は邊々出船は前回は七  
 多くなり四百二十石ありと云ふ一個小底な  
 し相傳ひ船に比し銀保合ひにて奉  
 洋七元十仙より十八元唱（なり）と  
 ★豆粕　本月初めては俄に五元九十九  
 輸出より本年度下りの輸出は之より  
 と其の出船は本日は前回は比して船相  
 千に於て船相より百三十枚を減少  
 千に於て相如は、故て洋銀三元三十仙  
 元より五仙して船相は變りな（船夫）

主要地に對する需用品の移入せしめんとす。斯くて島敷院に於ける年中取引額、貸貨其他にて三百萬圓を超へる市に三萬圓に垂んとし累年異常に上つてゐる。

◎同地の經濟は交通網の發達せしめんとす。は實へて以て、當地商會組合員の努力の功に依り、前鐵道は三年二月の創立に俾

野内清治(澤井清治)に脱走を諫めしつゝあり其他岩田果樹園、奥鹿白井果樹園等の發成し來るあり島院の果樹栽培の將來誠に有望なを知るべし

◎待合に精米類として年用五萬石二百萬圓を貯蓄せしむるを以て、  
 實地島院院の米界金融を左右する。福永金庫を以て、  
 所の諸國に貸し島院所の配下るべし其他金庫を以て、

[illegible][illegible][illegible][illegible]

鮮産  
東京  
京釜線大田驛  
東洋蠶業株式  
大田國電  
本社は毎年朝鮮各道郡廳に對し尤も多  
報次第苗木見本及價目早

○七書・實略(ト)  
納入の経験をもせり  
書を送呈仕候



















